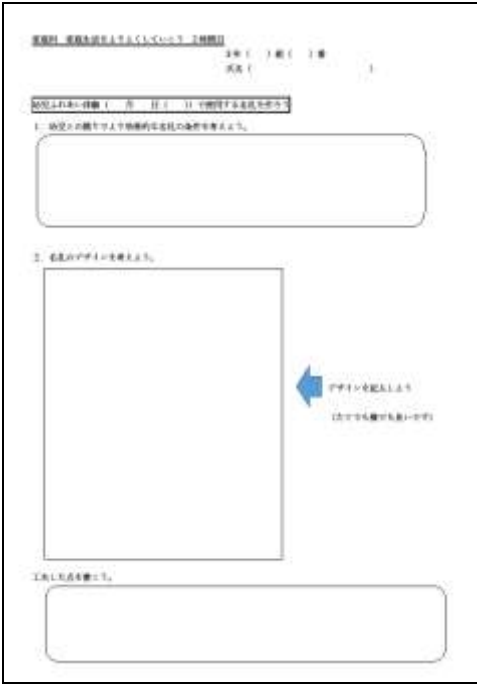




技術・家庭(家庭分野)実践③

中学校 第3学年 「家庭生活をより良くしていこう」 13時間

目標 家族や幼児に主体的に関わり、これからの生活を展望して家庭生活をより良くしようとする能力と態度を育てる。

	学習活動の概要	指導上の留意点
①	<p>(ねらい) 幼児の発達や生活を理解しながら、名札を作ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の幼児期を振り返り、幼児の気持ちを思い出す。 お世話になった人に関する思い出。 幼児の発達について理解する。 幼児の生活習慣について理解する。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼児の特性について配慮をしながら、触れ合い体験時に付ける名札を製作する。 <p>1. 名札の条件としてでた意見 「幼児の興味がわくようなイラスト」「色をカラフルに」「文字は目立つように」「名前はひらがなで」「チカチカするような配色はさける」「自分の好きなことや特徴を表す内容を絵にする」</p> <p>2. 工夫した点としてでたこと 「幼稚園の時の名札の文字が横書きだったので、幼児が読みやすいように横書きにしました。」「優しいようなキャラクターにして、親近感を抱いてもらえるようにした。」「男女どちらでも気に入ってもらえそうな絵にして、みんなと仲良くなれるようにした。」</p>	<p>○家庭環境等に配慮しながらも、自分の幼児期を思い出すことで幼児の思いや親の思いを考えるようにする。</p> <p>○幼児の服やおやつなど実物を提示し、実感を伴って考えられるようにする。</p> <p>○ワークシートへ配慮事項やデザインを書くことで自分の思いをまとめやすくする。</p> 
③	<p>(ねらい) 遊び道具の製作を通して、幼児の遊びの意義について理解しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼児と遊ぶときの声掛けを考える。 幼児にとっての遊びの意義を理解する。 ふれあい体験時に、触れ合いのきっかけになるおもちゃを作り、会話を考える。 	<p>POINT 1 このおもちゃをどのように使うと 幼児は興味をひくのかな。</p>

<p>④</p>	<p>(ねらい) 幼児の実態を知り, かかわり方の工夫を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼稚園の先生からお話を聞き, 幼児に対するイメージを膨らませ, 自分なりのかかわり方の工夫を考える。 (話はメモを取りながら聞く) (場面を設定して, より良いであろう自分の行動や発言を想像してみる。) 	<p>○話の内容について, 幼稚園の先生との事前の打ち合わせをしっかりとしておく。</p> 
<p>⑤ ⑥</p>	<p>(ねらい) 幼児ふれあい体験活動を通して, 幼児について実態を知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ペアになった幼児とのふれあいを通して, 幼児の実態を知る。 遊びや弁当の時間を共有しながら, 関わり方の工夫を行う。 ふれあい体験活動後に, 体験活動で感じたことをまとめることにより, 幼児に関して理解を深める。 	<p>○幼児について詳しく知り, 関心を深められるよう, 生徒と幼児とのペアを組んでおく。</p> <p>○きっかけの遊びから, 自由遊びへと遊びの幅を広げられるようにする。</p> <p>○遊びや弁当等の時間を共有しながら, 幼児の心身の発達について理解できるようにする。</p> <p>○ふれあい体験活動後に, 体験活動で感じたことをまとめられるようなワークシートを用意しておく。</p> 

⑦ (ねらい) 幼児との関わり方を工夫しよう。


- 体験活動で感じた幼児の特徴をもとに、幼児との関わり方の工夫を考える。
- 自分の感じた幼児の特徴をいろいろな人と共有できるようにグループを組んで、話し合いができるようにする。

POINT 2
次に幼児と関わる時、もっとうまく
関わりたいな。

⑧ (ねらい) 社会における子どもたちについて理解を深めよう。

- 幼児がいることで家庭や社会における、メリット・デメリットを考えよう。さらに興味を抱いた内容について調べてまとめよう。
- 幼稚園で触れ合った幼児を思い出しながら考えることで、具体的にメリット・デメリットが思い浮かぶように配慮する。
- 調べ方はパソコンの利用もできるようにする。
- まとめとして、社会的な施設や法律にも触れて理解を深める。

調べ学習の一例	
騒音	
調べたこと	気づき・感想
<p>子どものいる家庭の騒音</p> <p>①ジャンプ 走り回る 子どもの泣き声 親が子どもをしかる声 テレビ・ビデオ・楽器</p> <p>②防音対策がとられているアパートやマンションが増えている。</p> <p>③裁判まで行くケースも。スリッパをはかせる、しつけをしっかりとする、訴える側は自分もそのようなときがあったことも忘れずに…。</p> <p>④アンケート（小浜市）子どもの声が騒音と感じる7%</p> <p style="text-align: right;">騒音ではない</p> <p>84%</p> <p>⑤子どもの声 80～90デシベルともいわれる。</p>	<p>○ジャンプをするだけで下の階だけでなく上の階にも振動が伝わっていてびっくりした。</p> <p>○防音対策のとられる建物は、子ども以外にも楽器の騒音にも役立つ。日中睡眠をとる人も防音対策のある家が役立つ。</p> <p>○裁判にまで行くケースもあり驚いた。解決策を探すことが大切。</p>
<p>園児の声の騒音</p> <p>①保育園の子どもがうるさいと訴訟を起こした人がいる。</p> <p>その人の地域の騒音規制基準60デシベルに対し、保育園の騒音は70デシベル。 【判決】慰謝料は認められなかったが、保育園は施設の見直しを行った。</p> <p>②35%の人が園児の声が騒音だと感じている。</p>	<p>○多くの人が園児の声を騒音だと感じていて驚いた。</p> <p>○裁判になっていたことを知り驚きました。</p> <p>○保育園側は反対の意見を持つ住民を説得するためにしっかり設備を整えることが大切だと改めて感じました。</p>
<p>保育園での対策</p> <p>①防音壁 防音パネル 窓を二重サッシ</p> <p>②理解が得られるまで住民説明会</p> <p>③可能な限り設計の変更</p>	
安全	
調べたこと	気づき・感想
<p>幼稚園の周辺での交通安全の対応</p> <p>①スクールゾーンの設置</p> <p>②先生が信号に立ち誘導する</p> <p>③歩道を広げる。</p>	<p>○幼児が交通事故に合わないよう、いろいろ工夫をしているのが分かった。</p> <p>○歩道が広いと車いすの人にも役立つ。</p>
<p>幼児への交通安全の指導</p> <p>①交通安全指導（安全教室）を行っている。 【歩きかた、信号の見方、交通の決まり】</p>	<p>○幼稚園で交通安全教室を開いていることを知り、良い活動だと思いました。大人も子どもも気を付けることが大切だと思いました。</p>

⑨	<p>(ねらい) 高齢者や幼児等異年齢の人との関わりについて考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の特徴を知る。 ・ 幼児や高齢者といった、異年齢の人との関わり方を家族や社会の中でどのようにしていくといいのか関心を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○異年齢の人との生活をイメージしやすいようにDVDでの視聴も入れながら、理解を深める。 ○高齢者の方との具体的な関わり方や、社会の中での支援の様子に興味を抱けるようにする。
⑩	<p>(ねらい) 社会福祉協議会の方の講話を聞いて、高齢者の生活を知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 松江市の福祉の実態を知る。 ・ 松江市の高齢者の様子を聞いて、高齢者の方との暮らしが身近なものであることに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家族の中に高齢者の方がいない生徒にも、関わりがあることであるという実感が持てるよう、社会的な課題の側面も話に入れてもらう。 ○スライドを事前に打ち合わせ、印刷し、生徒に配布することで、盛りだくさんの内容を後で振り返られるようにする。 
⑪	<p>(ねらい) 家族の課題を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講話の内容や幼児との触れ合いを振り返りながら、自分の家族の課題を考える。 ・ 設定の家族の課題について、解決策を自分なりに考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○異年齢の人との生活について学んだことをふまえ、自分の家族について、課題を見つけ出す。 ○共通の設定の家族を作っておき、その家族の課題について考えられるようにする。
⑫	<p>(ねらい) 家庭生活をより良くするためにはどうすればよいか考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設定の家族の課題を見つけ、解決策を考える。 ・ 班で意見を共有し、考えを深める。 ・ 学級で意見を出し合い、多面的に課題の解決を考える。 ・ どうすれば良いのか、自分なりの最適解を考えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○個人の意見はワークシートへ、班の意見はホワイトボードへ、学級の意見は黒板へそれぞれ記入できるようにし、それぞれの考えについて深められるようにする。 ○話し合いや発表が深まるように、考える手順を分かりやすくする。

	<p>POINT 3 家族の課題を解決するにはどうすれば良いのだろう。</p>
<p>⑬ (ねらい) 今後の生活で自分にできることを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「家庭」という言葉から受けるイメージを考えよう。 家庭生活で大切なことを考えよう。 家庭生活をより良くしていくために、自分にできることを考えよう。 	<p>○今の生活をより良くする工夫を通し、将来の家庭をイメージできるようにし、授業のまとめとしたい。</p>

～ポイント解説～

POINT 0 「13時間を通して使用する振り返りシート」

A4 表紙部分

A4 裏表紙部分

※この授業の振り返りシートについて解説し、振り返り方を考えることが、**家庭学習について考えを深めよう**。

2年()組()番
 氏名() ()

学習の流れ

① 進路について考えよう
 1時間目～3時間目 幼児の特徴を知らう
 名札・おうちへの用意
 4時間目 幼稚園の先生の講話
 5・6時間目 幼児ふれあい体験学習
 7時間目 かかわり方を工夫しよう
 8時間目 社会における子ども

② 家庭について考えよう
 9時間目 高齢者について考えよう
 10時間目 社会福祉協議会の方の講話
 11時間目 講話に備えて振り返り

③ 家庭生活について考えよう
 12時間目 家庭生活をより良くするにはどうすればよいか考えよう
 13時間目 学習内容を振り返り振り返りシートをしよう

毎時間の振り返りシート

1時間目	2年()組()番	2時間目	生活習慣について、振り返り
2時間目	振り返りシート・おうちへの用意	4時間目	幼稚園先生の講話
3時間目	幼児ふれあい体験学習	7時間目	高齢者の役割や生活について
4時間目	名札やおうちへの用意	8時間目	講話に備えて
5時間目	幼児ふれあい体験学習	11時間目	講話から振り返り
6時間目	かかわり方を工夫しよう	12時間目	家庭生活について考えよう
7時間目	かかわり方を工夫しよう	13時間目	学習内容を振り返り振り返りシートをしよう

家庭生活に関してイメージマップを書いてみよう。

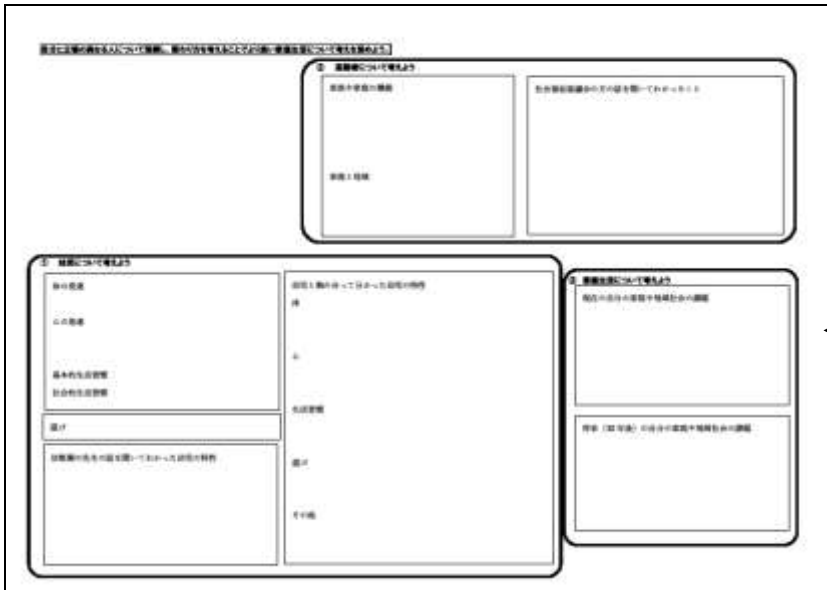
1時間目

家庭の未来

11時間目

家庭の未来

家庭生活をより良くするには――

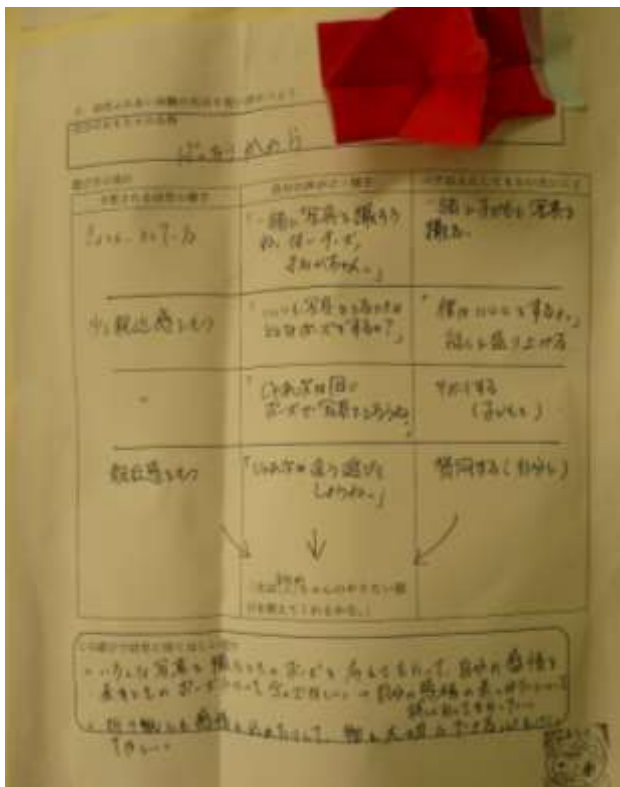


A3 プリントを開いた中の部分

本題材は「家庭生活をよりよくしていこう」という大きなテーマのもと授業を構成した。全13時間を前半は幼児について学び、後半は高齢者について学んだ。それぞれ自分と異なる年齢の人について考える内容である。幼児に関しては幼児ふれあい体験学習も取り入れ、より実践的な内容を盛り込み、異年齢の人とのかかわりについて考えやすい手立てを行った。高齢者については、社会福祉協議会の職員さんからの講話を聞き、松江市の現状を知り社会の中でどのように高齢者が受け入れられたり、活躍したりしているのかを知ることができた。

これらの学習の積み重ねを1枚の振り返り用紙に記入した。そうすることで、題材の中で貫いているテーマが意識でき、まとめにおいても今までの学習を基に考えることができた。

POINT 1 「このおもちゃをどのように使うと幼児は興味をひくのかな。」→かかわりの場面を設定する。



題材の目標にもあるように、「これからの生活を展望する力」＝「これから起こる場面を想像し対応をする力」をつけたいと考えた。

幼児のおもちゃ作りでは、素敵なおもちゃを作るというよりは、そのおもちゃを使いどのようにかかわりを持つと良いかを考えることに主眼を置いた。予想される幼児の様子や、その時の自分の声かけ・ペアの中学生の動きを考え、より良い対応には何が必要か気付いていた。

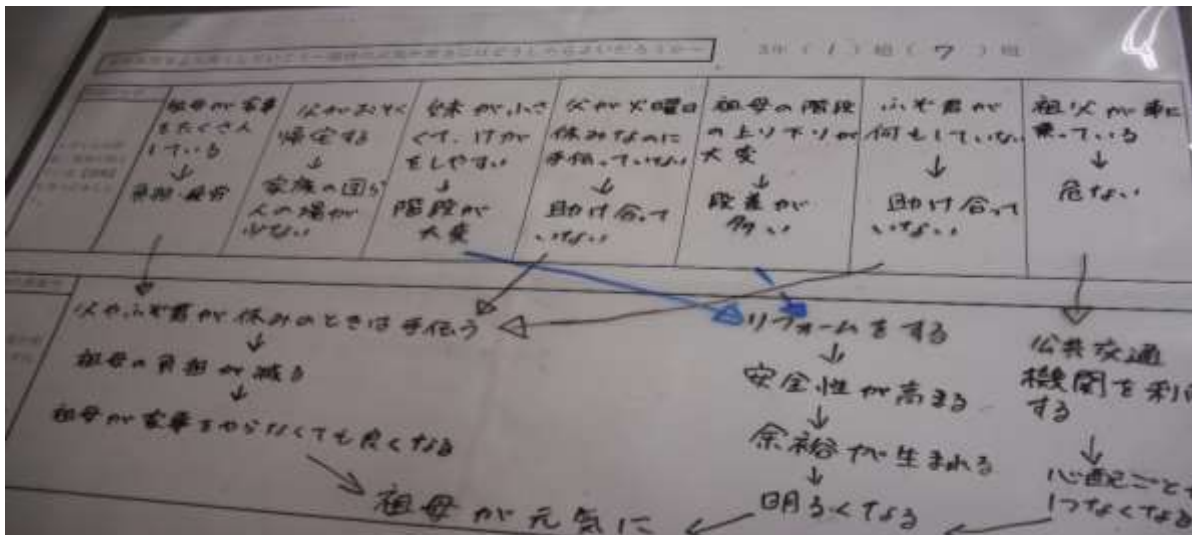
また、幼児にとっての遊びの意義も理解した上で遊びを通して発達が促されるような関り方も考えることができた。

POINT 2 「次に幼児と関わる時、もっとうまく関わりたいな。」→触れ合い体験を振り返りながら、関わり方について話し合いを持つ。

体	小さい、70=70=してた やわらかい 背は100cm以下?	強く引っぱたりしない かたさもない 目線を合わせる
心	元気、自己主張が強い いさいさとしている、腰の痛みが重なる	やりたいこととはことんつきあう 自分も元気が全かた
生活習慣 (食事の生活習慣) (排便生活習慣)	ゆずり合いも身につけていた、あんなにできる 準備が良い、正座して食べる 先生に言われたらやる	あまり手伝わないうようにする 自分もマナーに気をつける
遊び	1つの遊びを終えるのが早い。でも、 はまったらずっと同じあそび 友達にえいさようさよさよ	やりたいこととはことんつきあう
その他	背もじがよろしい、足が速い、ほかがある たんま最強	背もじをよめる たんまに いろいろしたい 笑顔で帰る

自分の関わった幼児について、まずそれぞれ個人でまとめを行った。幼児によって個性があり様子が異なるので、ふれあい体験時のペアとは異なる新たなグループを作り、ふれあい体験時の様子を共有した。その中で、関わり合いの工夫についてアドバイスを出し合った。グループでの話し合いはホワイトボードにまとめ、その後学級で共有した。幼児に対する対応について、考えが深まるとともに、自分とは異なる人へのかかわりについて考えを深めることができた。

POINT 3 「家族の課題を解決するにはどうすれば良いのだろう。」→共通の設定の家族について意見を出し合い考えを深めよう。



設定の家族(ふぞくん)を設け、その家族の課題を発見する。その後、解決策を話し合った。ふぞくんの家庭を考えることで、自分の家庭についても考えることができていた。

振り返り①

今回の「ふぞくんの母仕事を辞める問題」のように、相手の立場に立ちつつ家族みんなで課題を考えることが大切だと感じた。自分の家族にも当てはめ、よりよい家庭生活を考えていきたい。

振り返り②

問題意識を持つことで、そこから何が課題なのか、どうすれば解決できるのかを深く考えられると共に、それを家族観で話し合うことでコミュニケーションへつながっていくなあと思いました。

成果と課題:教科構想に基づいて本実践を振り返る

自分の暮らしと関連付けた知識や技能の習得の工夫として、幼児との触れ合い体験学習や高齢者についての講話を通して得た知識を整理したことは、今後の家庭生活を想像し、主体的に家庭を創っていかうとする意欲につながった。そして身に付けた知識や技能を場面に応じて活用できる課題の設定として、課題発見とその課題を多面的に解決策する方法を考える場を設定したことは、生徒が自分の問題として考え、今までの学習で得た知識を活用し考えを深める態度を育てることに有効であった。また、ある振り返りに【異世代の人との生活の良いところは、良い刺激を与えあえるところだと思います。異世代の人と話すことで様々な考えが聞けます。また、生活の中で幼児や高齢者の方ができないことを中学生が手助けすることも大切です。相手の気持ちになって生活することでみんなが気持ちよく暮らせると思います。】とあった。この題材を通しよりよい生活や社会を創造する力の育成を目指してきたが、生徒の家庭生活をより良くしようとする意識を高めることができた。

今後は、他の領域においても、今回の実践を生かし「生活をよりよくするための課題発見・解決策の探求」を組み込めるような授業展開を考えていきたい。

(青木佳美)

技術・家庭科(家庭分野)における資質・能力の育成

21世紀を生きぬくため、急激な社会の変化に主体的に対応することが求められている今、本学校園技術・家庭科部では自分たちの暮らしを見つめ、よりよい生活・社会を目指して工夫し創造することのできる子どもの育成をテーマに研究に取り組んできた。また、子どもに備え付けさせたい資質・能力のうち

○よりよい生活や社会を創造するために必要な知識や技能

○課題解決を目指し、身につけた知識や技能を場面に応じて活用する力

○よりよい生活や社会を創造する力

の3点を挙げ、さらに課題を「多面的にとらえる」ことを通して、課題解決に向けて身につけた知識や技能を場面に応じて活用する力の育成に焦点をあてて、研究を進めてきた。

平成28年8月に中央教育審議会教育課程部会から「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」が公表され、全教科等においてそれぞれの特質に応じた「見方・考え方」が整理され、家庭科、技術・家庭科(家庭分野)では、「生活の営みに係る見方・考え方」が以下のように示された。

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力、協働、健康・快適、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること

今年度研究の重点とした課題を「多面的にとらえる」ということは、まさに課題を解決するための一連の学習過程の基軸となる「生活の営みに係る見方・考え方」で捉えていくということである。

それでは、平成29年度の本附属学校園における家庭科、技術・家庭科(家庭分野)の研究授業ではこの課題を「多面的にとらえる」ためにどのような工夫が行われていたのかを検討してみたい。

小学校では、みそ汁を題材に、教師の家族に対して、みそ汁作りの提案を行うための計画を立てるという授業であった。家族の好みや年齢などの状況を踏まえ、実の組み合わせ方や調理の仕方、みそやだしのとり方について、想定した家族の好みや健康、年齢などの状況、作り手の思いなど多面的な視点を明確にすることで、計画を立てた理由をしっかりと表現できるような学習過程となっていた。また、各グループの計画を全体で共有することで、自分たちの計画にはなかった視点を取り入れる生徒の姿が見られた。

中学校では、「家庭生活をよりよくしていこう」という題材で、幼児や高齢者との関わりや知識をもとに、家族・家庭・地域について考えを深めることで、これからの生活において家族・家庭・地域における課題を解決する力や実践的態度を養うというねらいで授業が行われた。家庭生活をよりよくするためには、家族・家庭の仕事、地域社会などさまざまな既習の学習を基に多面的に課題を見出したり考えを広げ深めたりすることが大切である。

対象の生徒は、1年時の総合的な学習の時間において、高齢者福祉施設を訪問し、高齢者との交流を体験している。また、毎年附属幼稚園小学校中学校の3学校園での交流を行っており、異年齢の人との活動を経験している。さらに、「高齢者について考えよう」という学習において、社会福祉協議会の方の講話が行われている。これらの体験的な学習を基盤として、家庭生活をよりよくするために、課題を見つけ解決策を考えるという学習が行われたため、生徒たちは家族の課題を家庭の中だけで解決策を探るのではなく、地域、そして社会と家庭を結びつけ、多面的に解決策を探ることができていた。

今後は、「多面的にとらえる」学習場面において、どのような学びが行われているのか、またさらにその学びを深めるための方法を探っていく必要があると考える。

(共同研究者：島根大学教育学部人間生活環境教育講座、鎌野 育代)